

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2009.7.1

No.60

四月に大和王寺集会でコル・シャロームによる賛美とメッセージの集いを行いました。そこで、歌声倶楽部「シャローム」の案内をしたところ多くの方々からの反響がありました。そこでこれまで三回の集まりを持ち、毎回十名ほどの方が唱歌・童謡を歌うために集まっています。

音楽は人を癒し、励まし、慰めます。「音楽」(music)という言葉は、ギリシア語の「musa」からきています。これはギリシア神話の女神の一人で、音楽とは「ムーサ神の作品」と考えられたのです。聖書では、音楽を創造されたのは創造主で、その方に似せて造られた人間も、音楽的感性を与えられ、それを楽しみ、味わうことができる」と語ります。

音楽を使って創造主をほめたたえている箇所は数知れません。

「新しい歌を主に向かって歌え。喜びの叫びとともに、巧みに弦をかき鳴らせ。」

(詩篇三十三編三節)

また、来るべき天国に賛美が溢れていることが示されています。

「この後、私は、天に大群衆の大きい声のようなものが、「こう言つのを聞いた。「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの。」」

(黙示録十九章一節)

## 音楽の力は人を癒す

つていききました。そのときに参考にしたので賛美歌だったのです。

「星の界(よ)」という名前で唱歌集にのせられた曲も元来賛美歌でした。今でも「いくしき深き」という曲名で使われています。また、文部省唱歌として小学五年生の教科書に「星の世界」という名前で載っています。

実は、この賛美歌の作られた背景には以下のようなものがあります。

この曲の作詞をしたジョセフ・スクリブンは一八一九年、アイルランドのダブリンに生まれました。二十五歳の時、カナダに移住しました。理由は二つあったようです。

一つは、彼が私たちと同様な集まりであるプリマスブレザレンと呼ばれたクリスチャンたちの影響を受けたことです。二つめは、彼の婚約者が、結婚式の前夜に事故により溺死したことです。カナダにおいても、彼が四十一歳のときに、婚約者を結核で失うという辛い経験をしたのです。

あるとき、遠くダブリンに住む母が重病になり、彼は慰めの手紙を書き、この詩を同封しました。その後しばらくして、今度は彼自身が病気となったとき、彼を見舞った友人が、たまたま、彼のベッドの傍らに、メモ用紙に

殴り書きされたその詩を発見しました。友人はそれを読み、非常に関心を持ちました。スクリブんに、それを書いたのは君かと尋ねると、いつものようににはかみながら、「主と私とで、私たちの間でそれを作った。」と答えたそうです。

原詩の一番は以下のようなものです。

「罪や悲しみを背負っている中であっても。私たちは、イエスという何とすばらしい方を友として持っているのだろうか！  
何という特権だろう！  
神に祈り、すべての思い煩いを委ねることができるよ。

私たちは何としばしば平安を失うのだろうか。何と必要ない痛みを背負い込むのだろうか。それは、祈りを通して、あらゆることを神の前に持つていかないからだ。」 (個人訳)

彼が過酷な境遇の中でも、揺るぎない平安を抱いていた秘訣を、この歌詞の中から感じとることができます。そして、この曲を通じて、数えきれないほどの多くの人が慰めを得たのです。

これからもたくさん素晴らしい曲、またその背景をお伝えしようと思います。そして、是非、一時的な励まし、慰めではなく、永遠に続く平安を得る秘訣を、聖書の中からつかむ参考にしていただけたらと思います。



ピアノ伴奏デビュー

H

六月十三日、「心に響く、唱歌・賛美歌をあなたへ」と題して、四人組コーラス「コル・シャローム」によるコンサートがありました。家族全員で参加しましたが、私が座ったのは客席ではありません。舞台の上の、ピアノの前でした。

私は今年の四月から、「コル・シャローム」の伴奏をすることになりました。伴奏するきっかけになったのは、以前、伴奏されていた方が引越越されたからでした。

今までも幾度か伴奏してきましたが、今回の舞台となった東住吉区民ホールはこれまでになく大きかったです。肩にのしかかるプレッシャーは並大抵のものではありませんでした。しかし、不思議なことに、緊張に動じることなく、少々のミスがありました。最後まで弾き通すことができました。

ここまで来ることができたのも、私の力ではないと思っています。わたしは十年間ピアノを習い続けてきました。その間教えてくださった先生、祈りと励ましを持って支えてくださった教会の方々、何よりも最初から最後まで私を守り、導いてくださった神様の力によるものと実感させられました。これからもこのピアノを用いて、神様に仕えていくことができたらなあと思っています。

六月

こんなことしました！ 行事報告

- 一日 遠足・飛鳥
- 十三日 「心に響く、唱歌・賛美歌をあなたに」  
(東住吉区民ホール)
- 十六日 塗り絵・工作教室、貼り絵をしよう
- 二十三日 お作法教室
- 二十五日 合同公文教室
- 二十六日 岩淵まことさん、コンサート
- 二十七日 土曜学校「バターを作るう」

前回食べたときの味が忘れられず...同じところで苺を買いました。味も変わらずグッド！



珍しい男だけの写真



甘樫の丘でハイチーズ！自然豊かな風景を眺めながらの食事は最高でした。

飛鳥へ遠足

E

初めての甘樫の丘へ行った時の景色は最高でした。その景色は四方八方何の障害もなく眼下は飛鳥の里、大和三山、青垣の山々も見えました。

昼食後に石舞台に向かいました。その途中に三年前も食べてとってもおいしかったいちごが今回もあるのかなと思いつつ行くとやっぱりありました。さっそく買って食べたらとってもおいしかったです。このいちごはいつも食べているいちごの十倍おいしかったです。

石舞台には初め団体見学者がいて少し待っていると帰っていったので僕たちと他に3、4人だけになりました。だから、ゆっくり自由に見ることができて、写真を撮ることができたので良かったです。

カエルがいたのでお兄ちゃんが頑張つてとりました。さつき食べたイチゴの空のパックに入れて少し観察しました。でも最後には川に返してあげました。

バスで観光するよりも自分たちの足で観るといろいろな体験ができます。カエルをつかまえたり、おいしい空気をすったり、アイスクリームを食べながら歩いたり楽しいことばかりです。

道のりは九キロもあったので初めは大変だと思いましたが、みんなで歩くことができとっても楽しかったです。

編集後記

この家族新聞も六十号をむかえました。一か月があつたという間に過ぎるのに毎月驚きながら、もう五年も過ぎました。時々以前の号を懐かしそうに見ている子どもたちを見ると、次号への意欲を駆り立てられます。